

平成28年度学校自己評価表(中間評価)

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今年度の重点目標	1 学力の向上と進路志望の実現 (1)授業規律の確立 (2)力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 (3)キャリア教育の充実と進路目標の実現 2 自主性と自律心の育成 (1)基本的な生活習慣の確立 (2)部活動、生徒会活動への主体的参加 (3)学校行事への積極的参加 3 社会に関心を持ち、地域に貢献する人材の育成 (1)地域探究の時間・地域創造ハイスクールサミットの充実、高校生議会への積極的参加 (2)ボランティア活動への積極的参加 (3)主権者教育の充実
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準 A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (60%程度) D:まだ不十分 (40%程度) E:目標・方策の見直し (30%以下)

評価項目	具体項目	目指す姿	年 度 当 初		評 価 結 果	
			現状	具体的方策	経過・達成状況	評価
学力の向上と進路志望の実現	授業規律の確立	○授業規律が確立されており、どの生徒も授業を大切にし、真剣に授業に取り組んでいる。  <指標>アンケート「授業に集中して取り組んでいる」の評価AまたはBが80%以上	○始業時間が守られない時があり、挨拶も十分にできていないといえない。 ○授業に集中しきれない生徒がみられる。	○教師が授業開始時間を必ず守り、生徒が授業に遅れないよう指導を徹底する。また、挨拶もできるまで何度も繰り返し指導する。 ○授業中の発問や内容を絶えず検証し、生徒が授業に集中できる授業作りを行う。その際、他の教師に参観してもらうなど授業改革を進める。	○移動教室の授業で、同じ生徒の遅刻が目だったが、各生徒と面談を行い遅刻がなくなってきた。教科担任と学年団が連携をとり、開始時間の厳守に取り組み、始業の挨拶も開始チャイムで始めている。 ○2回の公開授業を通して、教師同士の参観と意見交換を行い、各授業の検証を行っている。また、生徒への授業アンケートを通しての検証も実施している。 ○アンケート「授業に集中して取り組んでいる」の評価AまたはBが77%であった。	B ○教科担任と学年団との連携を再度確認し、開始時間前に各廊下に立ち、生徒の移動を促していく。また、始業の挨拶も開始チャイムで始めている。 ○公開授業を通して、各教科の教師同士の参観と意見交換を行い、各授業の検証を行っている。また、前半の生徒の授業アンケートを検証し、後半の授業にいかしていく。 ○集中して取り組めていない理由を、各教員が行なっている授業アンケートなどを通して分析し、改善、指導していく。
	力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫	○教科の基礎基本が定着しており、学習効果が高い授業により、学力を高めている。 ○授業が工夫されており主体的に学習に取り組んでいるので、学ぶ力が高い。  <指標>アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AまたはBが80%以上 校外模試等の全国偏差値が高い。 国公立大学をはじめとする上級学校への進学意欲を持つ生徒の増加。	○生徒の基礎力に差があり、その定着に努力している。 ○授業の工夫がなされているが、生徒の十分な学力が定着できていない。 ○授業の予習や復習をしていない生徒が多い。	○各自の授業の取組みを検証するために、各学校の公開授業への参加、外部講師の招聘によって、多くの教師の意見を吸収しながら、生徒が主体的に学ぶ力を育成する。 ○授業と並行して基礎力を高めるために、生徒一人一人の学力を見極め、個別の課題を与えていく。また、個別指導等により、弱点の強化を行う。その上で、授業内容を高めていく。 ○具体的な予習・復習をプリント等で指示し、提出させ確認する。	○国語科、英語科、数学科から県内の公開授業へ参加し、各教科の科会で情報交換を行っている。外部講師の招聘は計画中である。 ○授業と並行して基礎力を高めるために、早朝課外、放課後課外参加者に対して、一人ひとりの学力を見極め、個別の課題を与えている。また、1年特別進学クラスでは、模試の復習・見直しチェックや外部テストの個別診断レポートを使用した個別指導により、弱点の強化を行っている。 ○国語・数学・英語の三教科は予習・復習をプリント等で指示し、提出させ確認している。 ○アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AまたはBが73%であった。	B ○全教科が県内の公開授業へ参加し、各教科会で情報交換を行っている。アクティブラーニングの研修のために、外部講師の招聘は実施する。 ○各教科や各クラスで、生徒一人一人の学力を分析し個別の課題を与えていく。また、学力向上委員会や各学年会で、進学クラスの模試の復習・見直しチェックや外部テストの個別診断レポートを使用した個別指導を徹底し、弱点の強化を行っている。 ○国語・数学・英語の三教科は予習・復習をプリント等で指示し、提出させ確認していく。 ○教科担当者による個別面談を行っていく中で、授業への満足感や主体的に参加する意識を育てていく。
	キャリア教育の充実と進路目標の実現	○多様な進路志望にも対応し、普通科進学校として上級学校を希望する生徒の進路実現が達成されている。 ○体系的なキャリア教育が進められており、低学年から進路を考えることができる。  <指標>アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AまたはBが80%以上 国公立大学10%、私立大20%、就職100%合格	○進路実現の達成の指標に対し、特に国公立大学への進学、公務員への就職状況が芳しくなく、目標達成に必要な学力、行動力の養成が不十分である。 ○アンケート結果は概ね指標を満たしている。しかし実態として、自分が目指す分野の特徴や、その分野へ進むためにどんな力が必要なのか、具体的なイメージができていない生徒は少ない。	○生徒の視野を広げ、早期に具体的な将来設計を描かせるために、進路講演会等と対応させながら、進路面談を緻密に行う。 ○生徒の現状と目標に対し適切な学習法を身につけさせるため、担任面談と連携しながら教科指導を行う。 ○個別指導の充実を図るため、受験指導の指導法や教材を教員間で研究し、共有する。	○上半期に実施した進路指導行事では、良質な刺激を得ることができた。 ○1・2年生は、4・9月に外部模試の結果分析会、8月進路検討会を実施し、個々の生徒の学力や進路志望の現状を共有した。 ○受験指導について、生徒の志望にあわせて教員も小グループを組織し、指導方法や教材の共有を図りやすい形で指導をしている。 ○アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AまたはBが76%であった。	C ○生徒の進路面談において、各生徒をどのように導くべきか、担任のみが抱え込むのではなく、教員間で話題を共有していく。また、その話題に対して進路指導部からも適切な情報共有を随時行っていく。 ○受験指導者と担任が連携を密にとり、指導をうける生徒の姿勢、気構えなども同時に指導し、受験を通して生徒の成長を図る。 ○進路行事での体験を刺激だけで終わらせないよう、進路目標に結びつけるよう面談指導していく。
自主性と自律心の育成	基本的な生活習慣の確立	○生徒の基本的な生活習慣が確立されており、落ち着いて生活できている。  <指標>問題行動発生件数の減少。服装指導等指導回数、遅刻者数の減少。	○昨年は、服装の指導や問題行動に対する指導を行う場面が多かった。今年度は基本的な生活習慣の確立に向けて、学校を挙げて取り組もうとしている。	○5Sの徹底(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ①遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ②教室や公共の場所からの私物の撤去、及び整理整頓を徹底する。	○遅刻に対する認識が甘く、遅刻届さえ催促しないと出ない状況がある。 ○不要物(スマホ)・ガム・漫画などの指導も絶えることが無かった。 ○5Sが認知されていない。	C ○ポイントを絞って指導することで、徹底させることを学ばせる。また、そのことにより、5S等の必要性を理解し、物事に対する考え方に改善が見られるようになってきた。さらに、結果としてその物事に対する考え方の改善から基本的習慣の確立に近づけていく。
	部活動、生徒会活動への主体的参加	○体育コースの生徒の意識レベルが高く、学校生活や部活動において筋となる生徒が多い。 ○全校生徒が部活動に主体的に参加し、活発で質の高い活動により、県大会優勝など高い実績を上げている。 ○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を高め、人間力を向上させている。  <指標>部活動加入率100% 個人団体合わせて県大会優勝5部以上 全国大会入賞3部以上 生徒会行事に関する生徒アンケートで高い達成感がある。	○体育コースの生徒が、部活動のみならず、学校生活においてリーダー的な役割を果たしているが、数は多くない。 ○生徒会執行部が「北栄町高校生議会」に参加するなど、応援団リーダー、各委員会活動に主体的に参加し、充実した活動に取り組む生徒が徐々に増えている。 ○部活動加入率全体92%(1年91%、2年94%、3年93%) ○県大会優勝・団体(4)・個人(16) ○全国大会入賞・団体(4)・個人(8) ○中国大会・近畿大会出場(レスリング・陸上・ソフトボール(男子)・山岳・水球・水泳・囲碁・音楽・美術・書道) ○全国大会出場(レスリング・陸上・水球・山岳・新聞・美術)	○体育コースの独自授業における「異年齢交流」において人間性を培い、「キャンプ等の実習」において協調性を養う。 ○生徒会執行部が各委員会と連携し、自治活動を活性化させる。 ○育英祭実行委員からの、企画運営に関わる説明をできるだけ丁寧に行い、各生徒が自分の努めを自覚し動けるようにする。 ○部活動において、日々の活動に計画性を持ち、課題を克服し、レベルアップを図る。 ○部活動単位でのボランティア活動への参加を促し、様々な場面で中心となって活動できる主体性を養う。 ○定期的に部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをする。(総体明け・夏休み明け・新人戦明け)	○様々な交流の企画・運営を経験することで、集団の中でのリーダーシップや個人としての責任感も養われてきている。また、集団生活を通して友情を深め、社会生活における規律や望ましい態度を育成した。 ○育英祭では実行委員が中心となり、全校生徒、特に下級生をよく指導し、成功裏に終わることが出来た。 ○ボランティアにおいては、陸上部がスイカ長いもマラソンで実施するなど部活動単位の活動があった。 ○部活動参加状況は、学事支援システムを活用し、各顧問がリアルタイムで確認できるようになった。 ○生徒会執行部と各委員会が同時に動くような活動が少なく、活動が出来ていない。	B ○ただ単に「パートナーと仲良く交流する」で終わることなく、人間としての尊厳や教育の視点が持てるように、人間関係の向上や相手への思いやり、自分の伝え方などを学ぶ交流となるよう内容を工夫する。 ○2学期に行われる球技大会では、執行部と体育委員が連携し、行事を盛り上げることが出来るよう指導する。 ○引き続き部活動単位のボランティアへの参加を促す。
	学校行事への積極的参加	○全生徒が積極的に学校行事に関わり、達成感を得ることで、他者との協調性や思いやりを身につけ学校生活を有意義に過ごすと共に人間力の向上がみられる。 <指標>アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価Aまたは評価Bが85%以上。	○学校行事によっては生徒間の連携がうまくできていないものもあり、充実した内容になっていない行事もある。	○生徒が主体的に行動できるよう、企画、立案から生徒を組織し、どのようにしたら全校生徒が動くかをリーダーの生徒を中心に考えさせる。 ○一つ一つの行事について十分に検討し価値の高いものにしていく	○1学期に行われた育英祭では、実行委員自らが既存の企画以外のさまざまな新規の企画を行い、実施することが出来た。 ○2学期に行われた運動会では、新種目を取り入れ、生徒が主体的に運営・行動することができた。	A ○来年度の育英祭についても、年度内に執行部を中心とした準備委員会を組織内容が充実するよう詳細に検討をしていく。 ○地域に愛され、保護者にも期待される大運動会にするため、今年の内容を精査し、来年度へ繋げていく。
社会に関心を持ち、地域に貢献する人材の育成	地域探究の時間、地域創造ハイスクールサミットの充実、高校生議会への積極的参加	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっている。 ○第2回「地域創造ハイスクールサミット」を開催し、昨年より多くの学校が参加・観覧し、昨年以上に研究協議が充実する。  <指標>参加校・観覧校、観覧者が昨年度より増え、提言も深まり、アンケートで研究協議の充実が評価されている。	○2年生での総合的な学習の時間をはじめ、高校生議会やキャリア探究など、地域に対する関心が高まっている。今年度も、2年生で16グループで探究学習をすすめ、提言を発表する予定である。 ○昨年度の「地域創造ハイスクールサミット」の反響も大きく、参加校も観覧者も増加すると思われる。	○企画研修部で議論を続け、必要に応じて担当教員や地域講師との意見交換会を実施する。 ○生徒と担当教員と地域講師が、十分に意思疎通をはかる。 ○サミットの発表形態や参加校の検討を含め、実施要項を早期に作成する。 ○サミット実行委員会や生徒実行委員会を早期に立ち上げる。昨年度の反省を活かし、生徒討論会や生徒交流会を充実させる。	○担当教員と地域講師は連絡を密にとりあい、実施できた。 ○サミットの実行委員会、生徒実行委員会を立ち上げ、準備しているところである。また、参加校は昨年を1校上回り8校となった。 ○サミットの内容が充実するよう関係機関と連携をとって準備を進めている。	A ○各班のまとめ、発表をサミットへ活かす工夫をする。 ○生徒実行委員会を十分に機能させるように準備する。 ○サミットで研究協議が充実するよう関係者と連携をとり準備する。 ○代表班には、中間発表や前日リハーサルを通してさらに内容を深め発表する姿勢を強化する。
	ボランティア活動への積極的参加	○全生徒が積極的にまた主体的にボランティア活動に参加することにより、他者への理解と自己の人間力を向上させている。 <指標>全校生徒が最低1回はボランティア活動を行っている。	○ボランティアに参加する生徒は増えてはいるが、全く参加していない生徒も少なからずいる。	○部活動単位でのボランティア活動への参加を促し、様々な場面で中心となって活動できる主体性を養う。	○昨年度の前期と比較し、ボランティアに参加している生徒の数は減っている。部活動単位での参加はあったものの、特定の部しか参加がなかったことが原因の一つとして挙げられるが、全校的な取り組みとなっていないことが大きな要因としてあげられる。 ○積極的にボランティアに取り組もうとする生徒はいるものの、特定の生徒となっており、指標達成に向けて改善が必要である。	B ○ボランティア募集のお願いが来るものの、生徒への案内が乱雑になっているため、教室掲示だけでなく、生徒玄関の掲示板等を活用する。また、職員朝礼等で職員にも案内し、生徒への案内の徹底をお願いする。 ○ボランティア参加は、就職や進学の際の自己PRに活用できるものであると考えられるため、進路部との連携も図っていく。
	主権者教育の充実	選挙制度の改正による高校生の参加について、その重要性を認識し、主体的に行動できている。 <指標>主権者者教育として年に1回は実施する。	○主権者教育に取り組んできているので、主権者としての自覚が芽生えつつあるが、自分のこととしての考えに発展したり、具体的な投票行動に繋がっていくのかは分からない。	○学年の活動や授業において主権者教育に取り組む。 ○専門機関に来ていただき講演をしてもらう。 ○地域探究との関わりのあるボランティアに対し、積極的に紹介をしていく。	○授業については2月に2年生を対象に実施する予定である。 ○地域探究の時間に関わるボランティアを積極的に紹介しており、参加した生徒は地域社会と関わりを深めた。高校生議会へ向けて準備を進めている。	C ○専門機関の講演や授業に関しては、今後実施する予定である。 ○地域探究に関わるボランティアに引き続き、積極的な参加を促すとともに高校生議会を通して主権者としての意識を高める。